



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

本校が推進する 中心発問にこだわる授業づくり

1 中心発問を学習課題との関連で説明できること

「なぜ、そのような中心発問を設定したのか？」を説明するためには、学習課題との関連で語れなければなりません。つまり、学習課題が適切に設定できていなければ、中心発問について、指導者の意図を説明し切ることができないのです。また、その際には、学習課題が「する目標」(行動目標)ではなく、「できる目標」(達成目標)になっていることも必要です。

2 中心発問の妥当性を「発展的振り返り」の質で評価する

このように、中心発問の設定の意図を説明できたとしても、その内容が適切なのかどうかということはまた別の話になります。それを本校では、児童が授業の終末で書く「振り返り」の質で評価することにしています。「振り返り」と言っても、「分かった・できた」といったようなことを振り返るのではなく、本時の授業での学びを踏まえて、さらに深めたり、広げたり、応用したりしてみたいこと等を「振り返り」として、ノートに書き留めさせるのです。このような「振り返り」のことを、本校では「発展的振り返り」と言っています。この「発展的振り返り」がどんどん書けるようになり、その内容に深まりが見られるようになってくると、中心発問が妥当であったという見方もできるわけです。

3 「発展的振り返り」を「主体学習」につなげる

授業の中でそれぞれの児童がノートに書いた「発展的な振り返り」を家庭学習のテーマにして、週末等に自由研究的に取り組みさせています。これを本校では「主体学習」と呼んでいます。決められたことに自主的に取り組ませる「自主学习」とは分けて、「主体学習」にも取り組ませているというわけです。学校全体で「主体学習コンクール」も行い、優秀な「主体学習」を表彰したり、全校に紹介したりして、本県が進める「主体的・能動的で深い学び」の質を上げるよう努めているところです。授業と家庭学習を線をつなぐ取組を今後も推進して参りましょう。

研究授業がんばりました！(3年)6/29

